

## 財団法人茨城県勤労者余暇活用事業団

[法人の概要]

平成18年7月1日現在

代表者名	理事長 武藤 賢治 (非常勤)	所管部(局)課	商工労働部 労働政策課	
所在地	水戸市笠原町978番6	電話番号	029-301-3635	
ホームページURL	<a href="http://www.yamizo.com">www.yamizo.com</a>	E-mailアドレス	<a href="mailto:info@yamizo.com">info@yamizo.com</a>	
資本金(基本財産)	4,000 千円	設立年月日	昭和49年12月6日	
主な出資者	出資順位	出資者名	出資額	出資比率
	1	茨城県	2,000 千円	50.0 %
	2	(社)茨城県労働者福祉協議会	1,000 千円	25.0 %
	3	茨城県市長会	500 千円	12.5 %
	4	茨城県町村会	500 千円	12.5 %
	5		千円	0.0 %
その他	団体	千円	0.0 %	
設立目的	勤労者及び公的年金加入者並びに公的年金受給権者の余暇活用と福祉の増進のため必要な事業を行うことを目的とする。			

[事業の概要]

事業名	平成18年度事業費	内容
事業1 余暇活用センター「やみぞ」運営事業	216,741 千円	福利厚生施設を持たない中小企業の勤労者等に低廉な価格により宿泊サービス等を提供する。
事業2	千円	
事業3	千円	

[組織]

7月1日現在の人数	平成16年			平成17年			平成18年		
	県派遣	県OB		県派遣	県OB		県派遣	県OB	
役員	常勤理事	0	0	0	0	0	0	0	0
	非常勤理事	10	0	0	8	0	0	8	0
	常勤監事	0	0	0	0	0	0	0	0
	非常勤監事	2	0	0	2	0	0	2	0
	計	12	0	0	10	0	0	10	0
職員	管理職	4	0	1	3	0	1	2	0
	一般職	16	0	0	9	0	0	8	0
	臨時職員	9	0	0	14	0	0	13	0
	嘱託職員	0	0	0	2	0	0	2	0
	計	29	0	1	28	0	1	25	0
当期常勤職員の年齢構成	20代以下	30代	40代	50代以上	合計	平均年齢	平均勤続年数		
	0	3	5	2	10	45歳 月	15年 2月		

## [収支の状況]

財団法人茨城県勤労者余暇活用事業団

(単位:千円)

区 分		平成15年度	平成16年度	平成17年度
収 支 の 状 況	収入合計	285,386	338,584	247,267
	事業収入	271,957	256,948	215,711
	事業外収入	13,429	81,636	31,556
	支出合計	304,665	331,983	234,523
	事業支出	277,464	238,574	203,612
	事業外支出	27,201	93,409	30,911
	うち管理費	152,346	131,652	126,408
	うち人件費	125,118	106,922	77,204
	当期収支差額	△ 19,279	6,601	12,744
	正味財産増加額	0	0	0
正味財産減少額	0	0	0	
当期正味財産増減額	△ 19,279	6,601	12,744	
前期繰越正味財産	△ 42,480	△ 61,759	△ 55,158	
期末正味財産	△ 61,759	△ 55,158	△ 42,414	
財 産 の 状 況	資産	53,646	72,965	24,401
	流動資産	51,163	70,874	22,921
	固定資産	2,483	2,091	1,480
	負債	115,404	128,122	66,815
	流動負債	35,243	116,067	60,425
	うち短期借入金	0	0	34,000
	固定負債	80,161	12,055	6,390
	うち長期借入金	0	0	0
正味財産	△ 61,758	△ 55,157	△ 42,414	

## [財的関与の状況]

(単位:千円)

区 分		平成15年度	平成16年度	平成17年度
財 的 関 与 状 況	補助金	10,115	13,525	15,672
	委託金	53,471	45,640	0
	貸付金		34,000	34,000
	計	63,586	93,165	49,672
	財政的関与の割合(%)	22%	17%	6%
	損失補償・債務保証			

## [平成16年度の補助金等の目的・内容等]

支 出 項 目	目 的 ・ 内 容 ・ 効 果
補助金	余暇活用センターやみぞ施設等整備補助事業 福利厚生施設を持たない中小企業勤労者の余暇活用と福利向上を図るため 余暇活用センター「やみぞ」の浴室改修工事、浄化槽修繕工事、冷温水発生器 防錆工事、絨毯張替工事、本館廊下塗装補修工事を行った。
委託金	
貸付金	勤労者余暇活用事業団貸付金 余暇活用センター「やみぞ」の円滑な運営のために必要な運転資金を貸し付け た。

[評点集計]

評価の視点	評価項目数	評点	満点	得点率
計画性	4	8	8	100.0%
目的適合性	4	0	10	0.0%
組織運営の適正性	4	8	8	100.0%
健全性	11	6	40	15.0%
効率性	9	15	32	46.9%
合計	32	37	98	37.8%

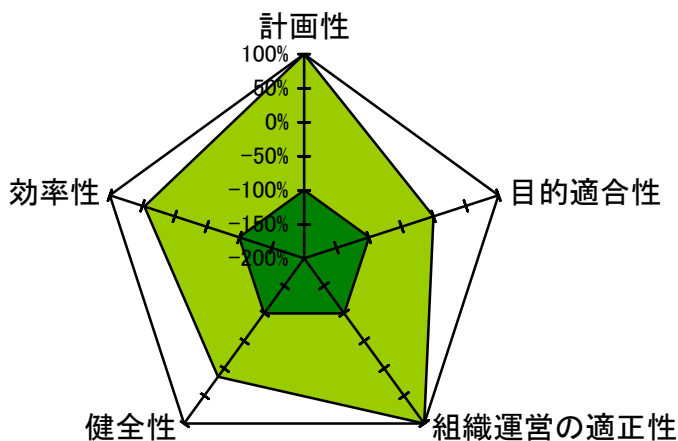
公益法人会計用

財団法人茨城県勤労者余暇活用事業団

警戒指標

借入金依存度

経営評価レーダーチャート



《評価の視点》

計画性	経営目的、経営方針が各種計画に反映され、計画・実行・見直しが行われているか
目的適合性	法人が行っている事業と当初の設立目的が適合しているか
組織運営の適正性	組織、人事、財務等の内部管理体制が適切に整備・運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切か
健全性	法人の財務体質が健全であるか、また、各事業の採算性がとれているか
効率性	組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているか

各評価項目については、「出資法人等経営評価指標及び評価基準等」を参照

[法人の自己評価(経営概況, 経営上の課題, 対策等)]

計画性	目的適合性	組織運営の適正性	健全性	効率性
平成16年度に策定した中期経営改善計画に基づき事業を推進し、職員間においても経営改善に向けた意識の疎通を密にするなど計画的に事業を推進している。	福利厚生施設を持たない中小企業の勤労者等に低廉な価格でサービスを提供しており、その役割は大きい。	全職員に定期的に経営状況を知らせるとともに、関係者と構成する「やみぞ経営改善推進会議」を開催し、役職員が一丸となって運営に努めるなど適正に運営している。	累積欠損金が46,414千円となり、その解消が課題となっているが、平成16・17年度決算においては黒字を計上し、改善してきている。	平成16年度に大幅な組織の合理化を図り、概ね効率的に運営している。
今後の事業展開の方向	<p>&lt;余暇活用センターやみぞ&gt;                      平成16年度に行った給与体系の見直し等による経費抑制の結果、今後の経営は黒字基調で推移する見通しとなった。                      今後も引き続き、平成16年度に策定した中期経営改善計画(平成16～18年度)を踏まえ、地域や施設の特性を生かした新たな営業戦略の展開による売り上げ向上や経費の削減に努め、累積欠損金の早期解消を図る。</p>			

[法人を担当する課の意見]

計画性		目的適合性	組織運営の適正性	健全性	効率性
中期経営改善計画等に沿って概ね適正に運営されている。		設立当初の目的に沿って概ね適正に運営されている。	臨時職員(パート)の比率が高いことから常勤職員中の管理職の比率がやや高い数値となっているが、職員間の意思疎通も比較的良好であり概ね適正に運営されている。	平成16・17年度決算においては黒字を計上し、経営改善のきざしが見え始めているが、累積欠損金の削減に向けて今後とも更なる経営努力の継続が必要である。	経営改善の結果、効率的な運営体制の基盤は整ったが、今後はサービスの質の低下を招かぬよう配慮しつつ効率的な運営を行う必要がある。
第4次行財政改革大綱等の推進工程	推進事項	累積欠損金の削減を最優先課題とし、そのための取組等を以下のとおりとする。 1 売上げ拡大への取組 ①新たな営業戦略の展開 ②利用料金の柔軟な設定 ③施設のイメージを定着させるPR ④職員の意識とサービスの向上 ⑤利用者の意見やニーズの反映 ⑥計画的な施設整備 2 経費抑制に向けた取組 人件費の抑制に努める他、料理の原材料の効率的な仕入れや、節電、節水等の全般的な経費の削減に努める。 3 中期経営計画の策定 第2次中期経営改善計画は平成18年度に終了。平成19年度以降については平成21年度までの3年間を期間とする次期中期経営計画を策定し、経営の基本指針とする。			
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	計画	累積欠損金の削減 (平成18年度目標額: △31,641千円)	累積欠損金の削減 (平成19年度目標額: △20,641千円)	累積欠損金の削減 (平成20年度目標額: △9,641千円)	
	取組状況	—	—	—	
法人担当課の意見		第2次中期経営改善計画に沿った「人件費の見直し」「組織の合理化」「材料費の抑制」等の経営努力の結果、平成16年度・17年度と黒字を計上し、経営改善の成果が現れ始めている。しかしながら、平成17年度末時点で46,414千円の累積欠損金が残されていることから、当該法人としては、平日利用者の確保等により、さらなる利用者及び売り上げの増加を図り、累積欠損金の削減に向けて努力を重ねていく必要がある。			

[総合評価]

<p>取組みを強化すべき視点</p>	<p>計画性      目的適合性      組織運営の適正性      健全性      効率性</p>
<p>総合的所見等</p>	<p>概ね良好      改善の余地がある      緊急の改善措置が必要</p> <p>平成16年度に策定した中期経営改善計画を踏まえ組織の合理化や経費削減に取り組んだ結果、2年連続で当期収支差額が黒字を計上したが、依然として債務超過の状態が続いており厳しい経営状況である。 当面は全職員が一体となって、利用客の確保や経費の削減に努め徹底した経営改善に取り組むことが求められる。老朽化した施設の改修については、県の負担となっておりその負担額も増加が見込まれることから、抜本的対応を併せて検討すべきである。</p>
<p>総合的所見等に係る対応</p>	<p>平成16、17年度と2年連続で黒字を計上し、今後の経営も黒字基調で推移する見通しとなっていることから、今後とも、累積欠損金の解消を最優先課題とし、更なる利用客の確保や経費の削減に努めるとともに、施設運営のあり方については、累積欠損金の削減状況等を踏まえながら抜本的な検討を行うよう指導する。</p>

< 財団法人茨城県勤労者余暇活用事業団 から県民のみなさまへ >

余暇活用センター「やみぞ」では、地元産の旬の素材を利用した料理、リンゴ風呂や檜風呂など季節で変わる大浴場などをご用意しております。自然づくしのおもてなしで従業員一同、皆様のお越しをお待ちしております。

平成19年2月

理事長 武藤 賢治